

分科会

テーマB

工業教育の質保証



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

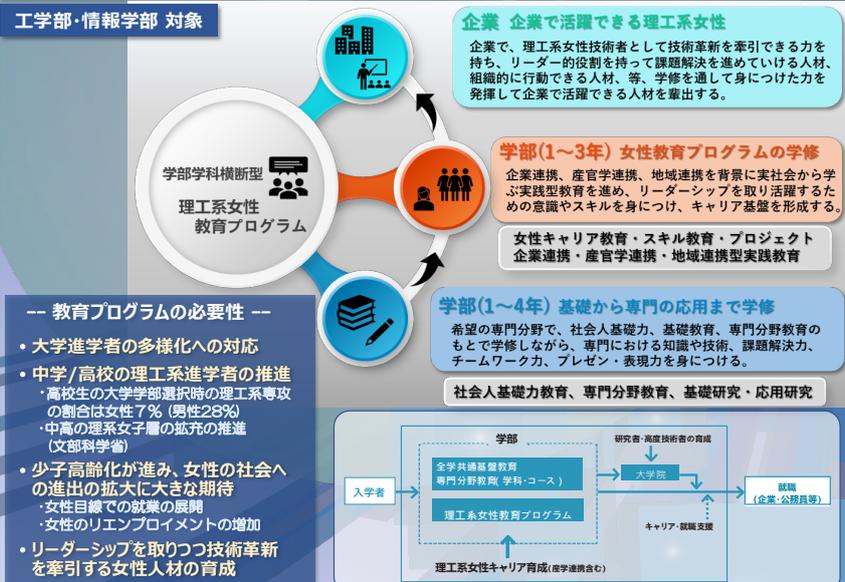
次世代社会を支える先進的な取り組み 理工系女性教育プログラム

工学部・情報学部対象

神奈川工科大学では、2024年度より「理工系女性教育プログラム」をはじめました。このプログラムは、AIやVRの発展に伴い、今後ますます重要となる次世代の社会に対応できる理工系女性人材の育成と、女性が働く環境について学ぶことを目的としています。選択科目でありながら、工学部、情報学部における新入生の約18%にあたる136人が履修登録をしており、その中には男子学生も77人含まれています。このことから、多様性の時代に対応するために、学生たちが高い関心を持っていることがうかがえます。

学部学科横断型教育 理工系女性教育プログラムの目的

工学部・情報学部 対象



企業 企業で活躍できる理工系女性
企業で、理工系女性技術者として技術革新を牽引できる力を持ち、リーダー的役割を持って課題解決を進めている人材、組織的に行動できる人材、等、学修を通して身につけた力を発揮して企業で活躍できる人材を輩出する。

学部(1~3年) 女性教育プログラムの学修
企業連携、産官学連携、地域連携を背景に実社会から学ぶ実践型教育を進め、リーダーシップを取り活躍するための意識やスキルを身につけ、キャリア基盤を形成する。

学部(1~4年) 基礎から専門の応用まで学修
希望の専門分野で、社会人基礎力、基礎教育、専門分野教育のもとで学修しながら、専門における知識や技術、課題解決力、チームワーク力、プレゼン・表現力を身につける。

学修プログラムの必要性

- 大学進学者の多様化への対応
- 中学/高校の理工系進学者の推進
 - 高校生の大学学部選択時の理工系専攻の割合は女性7% (男性28%)
 - 中高の理工系女子層の拡充の推進 (文部科学省)
- 少子高齢化が進み、女性の社会への進出の拡大に大きな期待
 - 女性目線での就業の展開
 - 女性のリエンプロイメントの増加
- リーダーシップを取りつつ技術革新を牽引する女性人材の育成

社会人基礎力教育、専門分野教育、基礎研究・応用研究

工学系女性キャリア育成(産学連携含む)

次世代社会を見据えた理工系女性教育

KAIT 理工系女性教育・育成のビジョン



教育・学修 フェーズ

中学 興味 理工系への興味関心

高校 選択 専門教育への進学

大学 成長 専門教育機関での特別な学び

社会での活躍

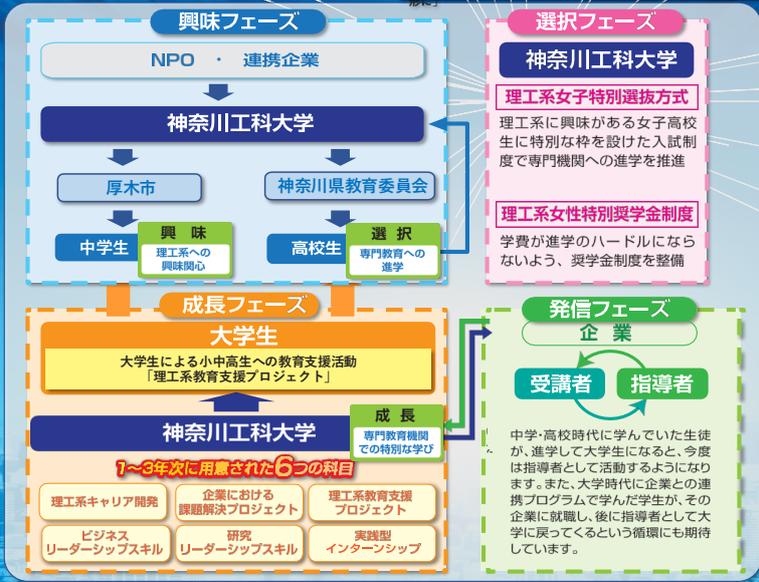
発信 理工系の学びの楽しさを後世に伝える

小中高生の興味喚起

科学技術振興機構 (JST)
令和6年度女子中高生の理系進路選択支援プログラムに採択
「女子学生のための神奈川テクノフューチャープログラム：科学で夢を形に」

理工系女性教育と地域・教育機関との関わり

科学技術振興機構（JST）
令和6年度女子中高生の理系進路選択支援プログラムに採択
「女子学生のための神奈川テク/フューチャープログラム：科学で夢を
形作る」



プログラム全体像

学部学科での基礎・専門教育に加え、理工系女性をテーマとした教育・学修を体系化することにより、将来、技術社会で職務を牽引する役割を担う理工系人材を育成します。プログラム修了者には今後のキャリアにおいて有利になることを目指し、修了証を授与します。



1年次 キャリア講座

理工系キャリア開発

将来、技術社会で専門職務を牽引する役割を担う女性人材育成を強化することを狙いとし、理工系女性教育プログラムの入り口にあたる必修科目

技術社会の理解、女性キャリア職の現状と将来像、ジェンダーとワークライフバランス、キャリアプラン設計等について、基本を学んだ上で、その後の教育プログラムの各科目へつなげていく導入科目

1年次 キャリア講座

2年次 プロジェクト講座

3年次 スキルアップ講座

実践型学修講座

2年次 プロジェクト講座



企業における課題解決プロジェクト

企業内で事業展開を進める上で必要な課題の発見と、課題解決に向けての施策の提案や新たな実施案の提案等を企業技術者や学外地域関係者、教職員と意見交換しつつ、学生間でグループワーク活動を進めながら提案型課題解決を進める学修を行う科目



理工系教育支援プロジェクト

大学前の学修から、自分が大学で学んでいる立ち位置を経て将来社会につなげていく背景を再認識し、現在の学ぶ姿勢に加え、自らの意識高揚と主体的実行力を身に付けることを目標に、実践型の教育支援を行う科目
小・中・高の教育機関や地域社会を対象として魅力的な理工系教育・実験実習教育等の支援活動を展開し自らも成長する



1年次 キャリア講座

2年次 プロジェクト講座

3年次 スキルアップ講座

実践型学修講座

3年次 スキルアップ講座



ビジネスリーダーシップスキル

企業人としてリーダー的役割を担って仕事に従事するために必要なスキルを理解し、その基礎を身に付けるきっかけとなる科目
企業技術者を講師とし、企業でのリーダー的役割を理解し、必要なリーダーシップ力、マネジメント力、計画・実行力、コミュニケーション力等の具体的なスキルの基本を理解し身に付ける



研究リーダーシップスキル

複数学科混在型のグループを作成し、専門学科の教員のもとで研究ワーク(実験・実習・調査等)を行うと同時にグループ内でリーダー的役割を実体験し、研究活動におけるリーダーシップの在り方や運用法を学び、同時に研究デザイン力、コミュニケーション力やチームワーク力の向上を図ることを目指す科目



1年次 キャリア講座

2年次 プロジェクト講座

3年次 スキルアップ講座

実践型学修講座

2, 3年次 実践型学修講座



実践型インターンシップ

企業内における実際の職場で実践的に業務体験を行う就業型インターンシップ科目であるが、業務の体験だけでなく、企業人としてのものの見方や考え方や、社会人マナー、コミュニケーション技法、報告書の制作等、女性技術者としての企業体験を主眼に、女性の目線や立場に立った企業就業型インターンシップを実施



理工系女性教育プログラムの履修状況

1 年次生の履修者数

	人数	割合%
女性	59	43.4
男性	77	56.6
計	136	

履修者の学科別女性数

学科	履修数
M 機械工学科	2
E 電気電子情報工学科	2
C 応用化学生物学科	15
I 情報工学科	7
N 情報ネットワーク・コミュニケーション学科	5
D 情報メディア学科	25
S 情報システム学科	3
計	59

高い興味を持つ授業科目 (アンケート調査)

興味のあるプログラム	女性	男性	計
2年次：企業における課題解決プロジェクト	32	41	73
2年次：理工系教育支援プロジェクト	18	25	43
3年次：ビジネスリーダーシップスキル	15	24	39
3年次：研究リーダーシップスキル	9	21	30
2～3年次：実践型インターンシップ	27	25	52

理工系女性教育プログラム 履修者の意見

女性履修者：授業に期待していること (アンケート調査)

- 女性のキャリア設計についてもっと詳しく知りたい
- 社会進出への不安解消**
- 将来に対する不安が大きい中、社会に出てく上で不安を少しでも解消したい
- 自分が想像している未来を実現していける力をつけられると期待している
- グループワークやインターンシップを通して**社会で必要とするコミュニケーション力や実践力を身につけたい**
- 自分が理工系に進むと思っていない人や理工系が苦手な人に意外とやれば何とかなるし楽しくなってくるよと**理工系教育支援プロジェクトにて自分の経験を伝えたい**
- 理工系の知識だけでなく、社会の一員としてのあり方も学べる
- 女子の理工系が増えることを期待している**

前向きな意見が多い中、将来や就活への不安解消のためという意見も散見される。「インターンシップに期待」や「女子の理工系を増やしたい」というコメントから、2年次以降のプログラム履修に積極的な学生も多い。

理工系女性教育プログラム 履修者の意見

男性履修者：授業に期待していること (アンケート調査)

- 社会について女性の視点
- 男性・女性だけでなく、様々な多様なジェンダーを持つ人等の多様性の社会に向けた授業
- 女性が理工系に進むことで社会がどういった動きをするのか気になった**
- 自分が実際に働いた時に女性の働き方ややりがいなどを理解すること、少し起業を考えていてその時に誰もが働きやすい会社などを作りたいので歴史など実際に社会で活躍している人がどのくらいいてどのくらい満足度があるのかが気になる**
- 志望する分野の女性の消費者を増やすこと。なぜなら私が進みたい分野では4500万人ほどの利用者が存在するが、女性の利用者が半分以下のため**女性の働き手がいればさらに市場規模を増やすことにつながると考えたから**
- 女性が働きやすい社会を作るには、まず、男性が知ることが必要だ**と思う。だからこそ基礎から実践まで学びたいと思う！

自分が社会に出た時のことをイメージしての履修や、多様性を理解したいという前向きな意見が多い

神奈川工科大学 理工系女性教育プログラム

専門分野において、知識と技術を使いこなし将来の新技术を創造でき、リーダーシップを取って社会で活躍できる理工系女性のスキルとキャリアを育成します

Special Program
理工系女性教育
プログラム



KANAGAWA
TECHNO
FUTURE
PROGRAM
女子学生のための
神奈川テクノフューチャー
プログラム 科学で夢を形に

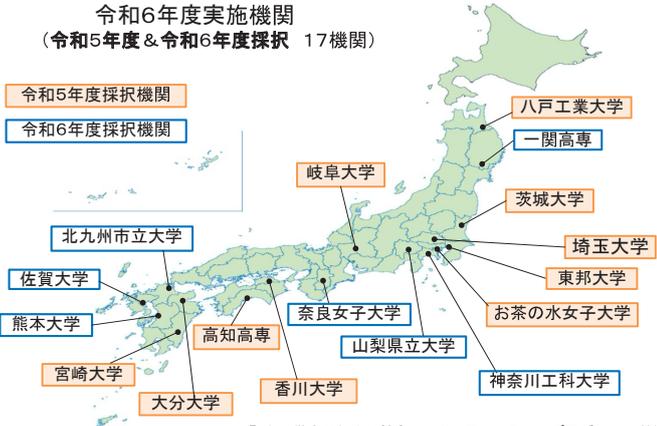


R6-9年度
神奈川工科大学
が採択

- ① 理工学系分野での多様な学の機会を提供する (●実験体験 ●ものづくり体験)
- ② 科学技術に関係する職業や幅広い進路を紹介する (●研究機関見学 ●企業見学)
- ③ 多様な理工系分野のロールモデルを提示する (●後援会・座談会 ●サイエンスカフェ)
- ④ 教員・保護者の理系進路選択への理解を促す (●セミナー ●座談会 ●相談会 など)
- ⑤ 多様なコンテンツを作成し、発信する (●デジタルコンテンツ ●ロールモデル集 ●成果報告書)

出典：国立研究開発法人 科学技術振興機構 次世代人材育成事業WEBサイト (<https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/index.html>)

女子中高生の理系進路選択支援プログラム 令和6年度実施機関 (令和5年度&令和6年度採択 17機関)



【女子学生のための神奈川テクノフューチャープログラム：科学で夢を形に】
実施責任者：神奈川工科大学学長 小宮 一三
実施主担当者：応用化学生物学科教授 小池 あゆみ

神奈川工科大学
女子中高生の理系進路選択支援プログラム推進プロジェクト
問い合わせ先
メールアドレス ▶ 2024jstp@kait.jp

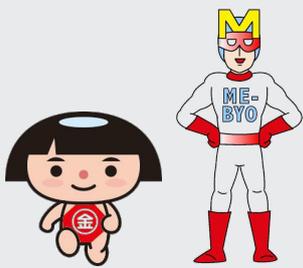
活動について
公式noteで発信中



神奈川県 <http://www.pref.kanagawa.jp/>

第7回工大サミット
分科会B「工業教育の質保証」
発表資料

工業高校における STEAM教育について



神奈川県立神奈川工業高等学校
総括教諭
川上 悟史 (カワカミ サトシ)

Kanagawa Prefectural Government

I 工業教育の質保証

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」 発表資料

魅力と特色ある
県立高校づくり
についての
アンケート等

グラデュエーション
ポリシー カリキュラム
ポリシー

教育目標 教育課程 評価

P 特にこの2つは D
キャッチーにする C

神奈川県では4年に1度大きな見直しを行う

A フィードバック

Kanagawa Prefectural Govern... 1

I 工業教育の質保証

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」 発表資料

研究・開発職 技術職 技能職

研究者
(エンジニア) 現場監督等
(テクノロジスト) 職人
(テクニシャン)

研究者
建築士
デザイナー 施工管理技術者
設計士
IT技術者 組立工
大工
電気工事士

大学・大学院 工業高校
専修学校 普通高校
職業技術校



Kanagawa Prefectural Government

神奈川県立
神奈川工業高等学校 2
Kanagawa Technical Senior High School

2 神奈川県立神奈川工業高校

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」 発表資料

教育目標（グラデュエーション・ポリシー）

◎ 目指す生徒像

来たる国際社会・超スマート社会で活躍できる

『次世代テクノロジスト』

課題解決型
人材

○ 卒業までに身に付けさせたい力

『創造的な問題発見・解決能力』

Kanagawa Prefectural Government

3

2 神奈川県立神奈川工業高校

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」 発表資料

『創造的な問題発見・解決能力』とは??

以下の4つの力から成ります。

- 1 理数基礎力 (M)
- 2 IoT、ロボット、AI及びビッグデータなどの先端技術活用力 (S&T)
- 3 工業(工学)に関する知識と技術の活用力 (A&E)
- 4 グローバルコミュニケーション能力 (E)

Kanagawa Prefectural Government

4

2 神奈川県立神奈川工業高校

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」 発表資料

教育課程（カリキュラム・ポリシー）

4つの力を育成する教育が・・・

工業教育に基づいた本校独自のSTEAM教育

『神工STEAM教育』

Kanagawa Prefectural Government


 神奈川県立
 神奈川工業高等学校 5
 Kanagawa Technical Senior High School

2 神奈川県立神奈川工業高校

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」 発表資料

●神奈川県立高校指定校事業 STEAM教育研究推進校

(令和4年度～令和6年度)

神奈川県内 **5** 校が指定された

(**神奈川工業**、光陵、横須賀、秦野、相模原弥栄)

※**神工STEAM**教育は、令和2年度より実施



Kanagawa Prefectural Government



神奈川県立
神奈川工業高等学校 6
Kanagawa Technical Senior High School

2 神奈川県立神奈川工業高校

評価 | ○令和5年度 卒業生304名

- **進学 100名**
将来のエンジニア等
- **就職 196名**
将来のテクノロジスト等
- **その他 8名**

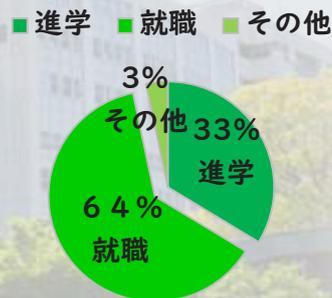


図 卒業生の進路先



Kanagawa Prefectural Government



神奈川県立
神奈川工業高等学校 7
Kanagawa Technical Senior High School

3 神工STEAM教育

神工STEAM教育5つ要件

- 要件1 **社会に開かれた教育課程の実践**
- 要件2 **自分自身のwell being (幸福) から発展した社会全体のwell beingを**
- 要件3 **実装することが重要である**
- 要件4 **探究的な学習と創造的な学習の往還させる**
- 要件5 **教科等横断的な学習の実践**

コンソーシアム事業

課題研究改革

教科等横断的な学習



【東京学芸大学大谷先生提唱 STEAM教育のすすめより】

- 要件1 実社会・実生活に自ら関わり、社会実現（実装）を目指す
- 要件2 問題解決に向けて「ありたい姿」を見出し「あるべき姿」を描く
- 要件3 問題を見出し、その問題の原因を分析し、課題を設定し、その課題を解決する。
- 要件4 「探究」と「創造」を往還する試行錯誤を通して問題を解決する。
- 要件5 S・T・E・A・Mの複数の領域に横断的・総合的に取り組む

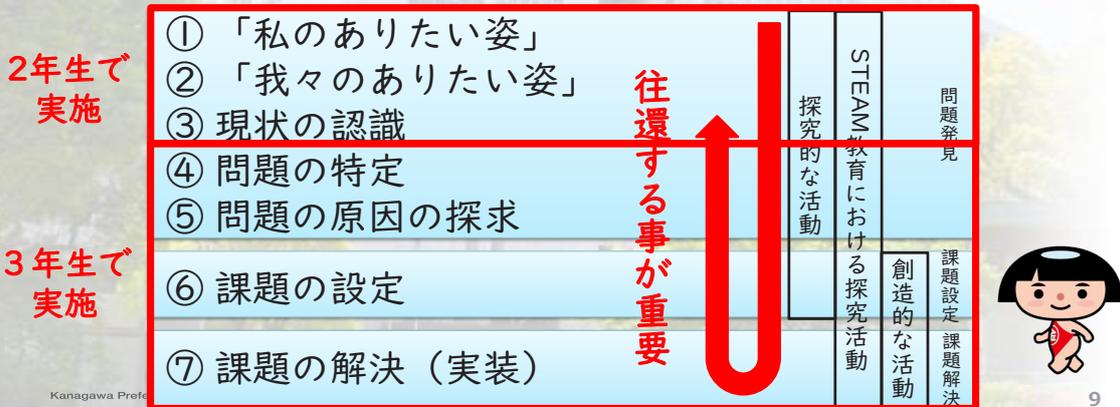
Kanagawa Prefectural Government

8

3-1 課題研究改革

本校課題研究の流れ(2年生1単位、3年生3単位)

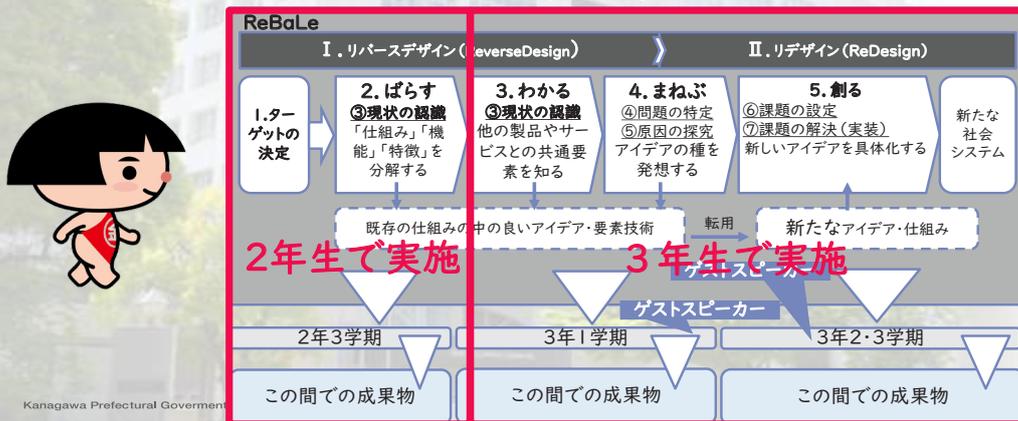
STEAM教育における探究活動のプロセス



3-1 課題研究改革

「ReBaLe」を活用【富士通総研×大阪工業大学が共同開発】

- Reverse & Redesign Based - Learning
- アイデア創出・アクティブラーニングの新たな手法



3-2 コンソーシアム事業

第7回工大サミット 分科会B「工業教育の質保証」

- 次世代モビリティエンジに育成コンソーシアム(機械科)
- 次世代建築リーダー育成コンソーシアム (建設科)
- かながわP-TECHコンソーシアム (電気科)
- 検討中 (デザイン科)



3-2 コンソーシアム事業（一例）

次世代建築リーダー育成コンソーシアムとは？

施工管理技術者の不足

次世代施工管理技術者の育成が急務

神奈川工業高等学校（3年）

東京テクニカルカレッジ（4年）



高校・専門学校・企業が連携し、
施工管理技術者に必要なスキルと
マインドを学ぶ7年間の
教育プログラムを提供する。
(講話、メンタリング、インターンシップ等)
2023年4月スタート

三者による
連携協定の締結

学習支援に留まることなく、
就職支援・採用の機会を提供し、
次世代建築リーダーとしての
活躍の場を提供

次世代の施工管理技術者を育成することにより、日本の施工管理技術者不足に対応し、
建設業界全体の基盤維持に寄与する。

12

3-2 コンソーシアム事業（一例）

高校、上級学校・企業が一丸となって生徒・学生を育てる。（エコシステム）

マインドセットの醸成
Exposure
(実感経験)

特にこれが重要！！

スキルセットの醸成
Application
(実践経験)

生徒・学生 年次	高校1年生 (1年次)	高校2年生 (2年次)	高校3年生 (3年次)	専門学校1年生 (4年次)	専門学校2年生 (5年次)	専門学校3年生 (6年次)	専門学校4年生 (7年次)
成長段階	興味・視野 を広げる。	技術を通し て自己を見 つめる。	進路を選択 する。	専門性を磨く。 実践経験を積む。	社会の課題に技 術をもって挑む。	検討中	検討中
対象生徒	建設科			建築監督科			
プログラム	現場見学	現場見学		メンタリング			
	1学期講座	1学期講座		インターンシップ			
	2学期講座	2学期講座		講座	講座	講座	講座
	3学期講座	3学期講座					

4 今後の展望（教科等横断の学習）

教科等横断とは
探究 ⇔ 創造



往還する

探究により創造したい気持ちが高める。
創造により探究したい気持ちが高める。

第7回工大サミット分科会B「工業教育の質保証」

マイスター・ハイスクールとしての取組
～浜松型ロボティクス・デジタル人材の育成～



静岡県立浜松城北工業高等学校

校長 寺田 弘隆

目次

- 1 浜松城北工業高等学校について
- 2 マイスター・ハイスクール事業の取組
 - (1) 工業教育の質保証
 - (2) 浜松型ロボティクス・デジタル人材の育成
 - (3) 成果と課題 ～工業教育の質保証に向けて～



静岡県立浜松城北工業高等学校

1 浜松城北工業高等学校について

(1) 所在地



JR浜松駅から北へ約3.5km

浜松市公式ホームページより

(2) 歴史

開校70年

- 1897(明治30)年 静岡県浜名郡蚕業学校 創立
- 1955(昭和30)年 浜松農業高等学校に
農業機械コース、農業土木コース
を設置(開校元年)
- 1957(昭和32)年 浜松農工高等学校と改称
- 1964(昭和39)年 浜松城北工業高等学校 独立

(3) 本校の使命

浜松地域のものづくり産業を支えるエンジニア育成

2万人超の卒業生

YAMAHA
HONDA
SUZUKI
KAWAI
Roland
浜松ホトニクス

2 マイスター・ハイスクール事業の取組 (以後MH事業)

(1) 工業教育の質保証

① 教育内容

- ・スクールミッション(目的・目標)につながる工業教育
- ・地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人材の育成『浜松型ロボティクス・デジタル人材の育成』

② 評価

- ・教育実践によって目的、目標が達成できているかの評価
- ・内部評価(MH取組実施状況、生徒の変容などの評価)
- ・外部評価(MH運営委員会、MH事業推進委員会などの評価)
 - ☆企業、行政、県教委、文科省からの意見、指摘など
 - ☆PDCAサイクルを回し続ける

2(2) 浜松型ロボティクス・デジタル人材の育成

地域と学校の課題解決の方向性が一致



① 【本校の最重要課題】

- ・入学者選抜の志願者が定員に満たない『定員割れ』
- ・本校の使命が果たせない『存在意義の消失』

学校の魅力化

② 【浜松市の抱える課題】『高齢化等による労働人口減少』

- ・第2期はままつ産業イノベーション構想「ロボティクスのまち浜松」

③ 【地元企業が抱える課題】『製造業における深刻な人材不足』

- ・高いスキルをデジタル化で作業を平準化、デジタル技術人材の育成

2(2) 浜松型ロボティクス・デジタル人材の育成

工業教育の質保証

地域と学校の課題解決の方向性が一致

- ・ヤマハ発動機、浜松市、県教委、本校による協議



文部科学省マイスター・ハイスクール事業の申請(令和3年度)

マイスター・ハイスクール事業の指定(令和4・5・6年度)

☆マイスター・ハイスクール事業の特徴

- ・地域の構想、要望が起点 ⇒ 学校が応える形で事業に取り組む
- ・企業人(CEO, 産業実務家教員)の配置



静岡県立浜松城北工業高等学校 研究テーマ

やらまいか精神を取り入れた浜松型デジタル人材の育成プロジェクト～社会で活躍できるスペシャリストの育成～

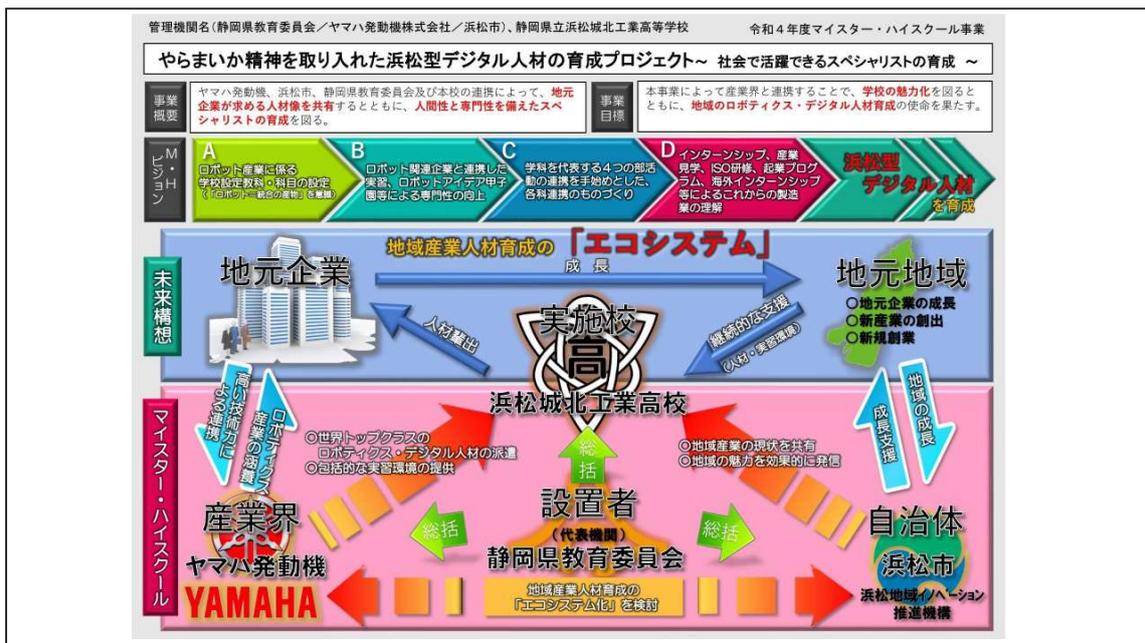
☆浜松地域のロボティクス・デジタル人材育成のエコシステム（持続可能な循環システム）を研究開発

☆研究理念「やらまいか精神」＝生徒の主体性を育む

☆ロボティクス人材の定義

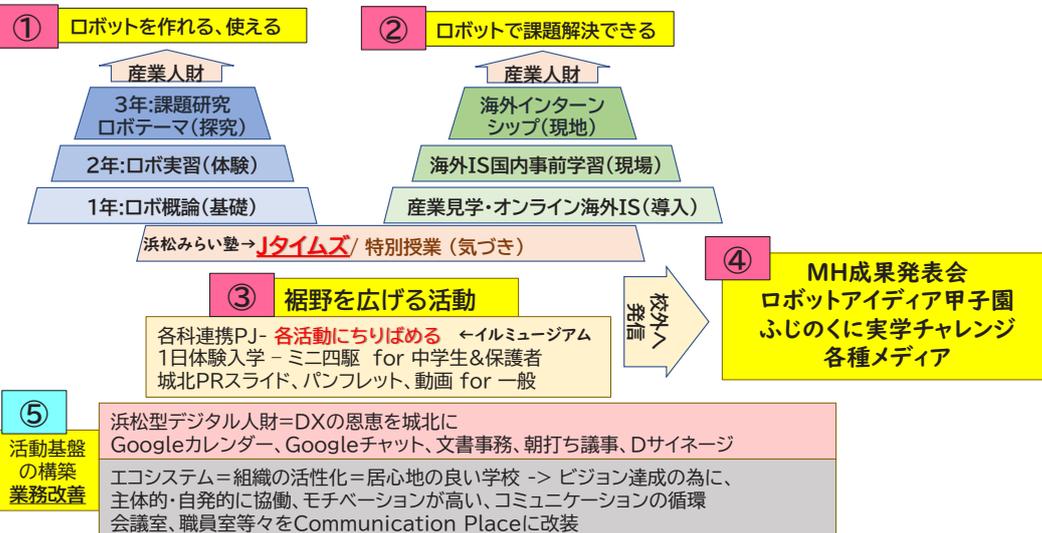
工業教育の質保証

『ロボットを作れる、ロボットを使える、ロボットで課題解決できる人材』



R6年度MH事業 - 戦術図&建付け

R6 第1回MH運営委員会 2024/06/20



MH事業の目的と3つの目標及びその実践内容(R6年度)

目的

地域の産業人材育成の「エコシステム」構築～ロボティクス・デジタル人材の育成～
【スクールミッション】
浜松地域に根差した工業高校として、地元企業との連携した教育を通して、社会で活躍できるスペシャリストの育成を目指す。

目的達成のための3つの目標

多くの中学生が入学している 【入学広報】 ①	地元企業が学校現場へ参入している 【企業参画】 ②	時代に合った生徒を育成する 【生徒育成】 ③
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校PR」動画制作 ・「学校案内パンフレット」改新 ・「高卒就職の魅力」パンフレット&動画制作 ・1日体験入学「ミニ四駆」実施 ・校内広報「デジタルサイネージ」 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業紹介企画「Jタイムズ」 ・企業講話「浜松みらい塾」 ・企業からの「人材」の提供 ・企業からの「体験」の提供 ・企業からの「物資」の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生「ロボティクス概論」 ・2年生「ロボティクス実習」 ・3年生「各科連携ロボットテーマ課題研究」 ・MH「海外インターシップ」 ・4科連携「イルミュージアム」 ・グランド整備車開発 ・「ロボットアイデア甲子園」参加 ・「国際ロボット展」見学

2 マイスター・ハイスクール事業の取組 (3)-1 成果

① 入学広報（本校の魅力発信）

- ・中学生ミニ四駆体験、出前授業・学校紹介冊子・学校PR動画の刷新、クリスマスイベントなど

② 企業参画

- ・多くの企業の協力で生徒は最先端の知識と技術を学ぶことができた

③ 人材育成

- ・学校設定科目、課題研究、MH海外研修、国際ロボット展などに多くの生徒が参加

④ MH事業成果発表会

- ・生徒が体験した活動を学校全体で共有し、関係機関へ報告するために実施した
- ・全校生徒が参加した大ホールでの体験発表は、楽しく、イベント感にあふれた

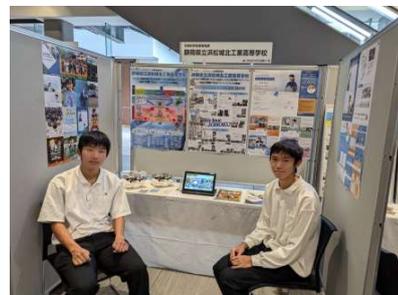


MH事業成果発表会(R5.12.20)

2 マイスター・ハイスクール事業の取組 (3)-1 成果

⑤ 生徒の体験記から

- ・従来の学校生活では得ることができない学びや機会を体験した
- ・チームを先導することでリーダーシップを得た
- ・「やらまいか」の気持ちでチャレンジ精神を得た
- ・多くの方々と接しコミュニケーション能力が身についた
- ・MH海外インターシップで海外への興味が高まった
- ・MH事業に取り組んだ生徒全員が多くのものを学び、そして成長した



さんフェアとちぎMH成果発表(R6.10.26)

⑥ 業務改善(教職員の变化)

学校改善の取組

☆教職員が企業の仕事の手法を業務に取り入れるようになった

【会議時間の短縮】

- ・目的・目標の明示、合意形成、会議はタブレット・C-Learning活用など

【分掌と運営委員会の双方向のつながり強化・職員会議の活性化】

- ・個々の意見やアイデアは分掌を通して提案する
- ・若手教員がミドルリーダーを通して意見を提案できる環境が整った

【効率的な情報共有】←普通科と工業科の職員室が別々で情報共有が非効率

- ・会議室及び普通科職員室に学年部の島、フリースペースを新設
- ・Google Chatの活用による迅速な情報共有

(3)-2 課題

工業教育の
質保証

① 生徒

- ・個々のロボット学習の参加人数が限定されている
- ・生徒全員がロボット学習に参加しているとの実感が持てていない

② 保護者

- ・実際にやっていることがわからない。子供に聞いてもわからない

③ 生徒の変容分析(何ができるようになったか・主体性)など

- ・数値化が難しい

④ 教員

- ・学校全体の取組、教員自身の主体性が十分ではない

⑤ 令和7年度からの持続可能な自走化

- ・企業との連携体制、経費確保、校内組織の構築など



ご清聴ありがとうございました

ようこそ 浜松城北工業高校へ



あなたもロボット作りに挑戦してみませんか

Society5.0を支える工業高校の実現に向けた戦略プロジェクト

Next Kogyo START Project

Strategies for TOKYO Advanced and Reformed Tech High Schools

東京都立工業高等学校長会

第7回 工大サミット

プロジェクトの基本的な考え方

～高度IT社会において東京の成長を支える、魅力ある工業高校を目指して～

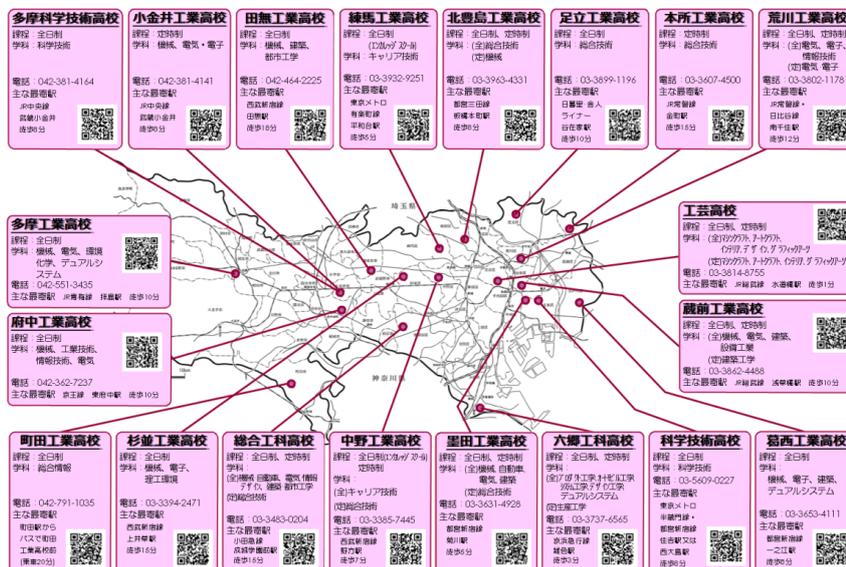
- 国際競争力の強化に向けて各産業におけるDXの推進などが社会的な課題となっている。
- 社会の変化にも対応できる技術者の育成が求められている。
- 社会の課題に向き合い、創意工夫により課題の解決や価値の創出に貢献する人材の育成
- 工業高校には、企業・高等教育機関・研究機関等との連携し、考える力と学び続ける力の育成が重要



このような人材を育成していくための工業高校の姿を示すこと

第7回 工大サミット

都立工業高校の設置状況



Society5.0を支える工業高校の実現に向けた戦略プロジェクト【概要】

高度IT社会において東京の成長を支える、魅力ある工業高校の実現に向けて

- 技術革新やDX等に対応できる人材の育成に向け、工業高校の将来像や教育内容等を明確化し、施策を実行
- 東京の成長を支えるDX人材等の裾野拡大に向け、工業高校の魅力を向上・発信

“ものづくり”の新たな局面に向き合い、社会からの期待に応える工業高校へ

社会の動向

- 持続可能な社会の実現 “SDGs”
【SDGsが目指す社会】
社会、経済、環境の課題を統合的に解決しながら、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会を実現
- 科学技術基本計画“Society5.0”
仮想空間と現実空間との融合による経済発展と社会的課題の解決
- 技術革新、AI, IoT, Data等によるソリューション
- 新型コロナウイルス感染症による“ニューノーマル” “DX”の推進

教育の動向

- 高等学校新学習指導要領 “社会に開かれた教育課程”
○ 中央教育審議会答申 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」 “STEAM教育”の推進

社会からの期待・ニーズ

- 有識者会議、アンケートなど
・ 学び続ける力や考える力の育成
・ 基礎的なITスキルの育成
・ 先端的な技術に触れる機会や学習 等

工業高校の将来像

※ 詳細は、15ページ以降

- 企業等との連携
- 課題解決型学習の推進
- IT等の学習の充実

創造的な活動により、新しい価値の創出や都市課題の解決に貢献できる技術人材を輩出

プロジェクトの推進（体系）

1. DX人材育成等に向けた先進的な工業高校の実現
学科等のアップデート、企業等との連携推進など
2. 未来を切り拓く教育内容・指導法の展開
プロジェクト・ベースド・ラーニングの推進
工業IT科目の導入、先端技術の活用
3. 生徒が躍動する研究機会の創出
東京未来ファクトリーの実施等
4. 魅力の向上・発信
工業高校の名称の変更
教員による知識・技術のアップデート、DX実習設備の導入等
PRワークショップの開催など

第7回 工大サミット

「高度IT社会の工業高校に関する有識者会議」提言より

■ 都立工業高校において育成する素養等

専門性	基礎的IT・データスキル コンピュータシステムやプログラミング、工業に関する数値処理等を活用する力												
	ものづくりの基盤となる基本的技術 工業の見方や考え方を働かせる工業の各分野についての基礎的な知識・技術												
基礎的な素養	ヒューマンスキル												
	<table border="1"> <tr> <td>学び続ける力</td> <td>チームで働く力</td> <td>考える力</td> </tr> <tr> <td>好奇心・探究心</td> <td>自分の意見を表現する力</td> <td>問いかける力</td> </tr> <tr> <td>折れない・諦めない心</td> <td>意見・立場の違いを理解する柔軟性</td> <td>課題を発見する力</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む力</td> <td>コミュニケーション能力</td> <td>新しい価値を生み出す力</td> </tr> </table>	学び続ける力	チームで働く力	考える力	好奇心・探究心	自分の意見を表現する力	問いかける力	折れない・諦めない心	意見・立場の違いを理解する柔軟性	課題を発見する力	主体的に取り組む力	コミュニケーション能力	新しい価値を生み出す力
	学び続ける力	チームで働く力	考える力										
好奇心・探究心	自分の意見を表現する力	問いかける力											
折れない・諦めない心	意見・立場の違いを理解する柔軟性	課題を発見する力											
主体的に取り組む力	コミュニケーション能力	新しい価値を生み出す力											
基礎学力 全ての学習を成立させる上で必要な基礎的知識・能力													

※ 提言本文より抜粋

- 新しい知識・技術が短期間で絶え間なく生み出されていくため、生徒が将来にわたり**学び続けていくための礎を築く必要がある**。生徒が**好奇心をもって主体的に取り組むことや、「ものづくりの楽しさ」を実感しながら、「考える力」「学び続ける力」などのヒューマンスキル等を身に付けることが肝要である**。
 - 技術が高度化・多様化し、一人であらゆることに対処することが困難であるため、**チームで協働して課題に向き合う姿勢が求められる**。
 - 今後一層重要性が増していく**基礎的IT・データスキルを学んでいくことも必要である**。
- 第7回 工大サミット

「高度IT社会の工業高校に関する有識者会議」提言より

■ 工業教育の変革に必要な視点【概要】

企業等と連携し、好奇心・探究心が豊かな生徒から選ばれ、ものづくりの楽しさを実感できる学校へ

ヒューマンスキル

【視点1 “楽しい！”を実感できるものづくりへ】

- 目的意識を明確にし、ものづくりの社会的意義や使命を理解するとともに、学び続ける力を育成する。
- ベンチャー企業経営者等から会社経営、時間・コスト管理、世界に誇る技術や魅力あふれる制作の現状を学ぶ機会を設ける。産業界で活躍するエンジニアから直接講義を受けたり、最新の施設・設備を見学したりするなど、最先端の知識・技術に触れる機会を創出する。
- 自ら課題を見つけ解決に向けて取り組む課題解決型の学習にチームで取り組み、考える力やチームで働く力を身に付ける。
- 人間の使い勝手を中心とした設計やデザイン思考によるアプローチで主体的・創造的に取り組む。

ものづくりの基盤となる基本的技術

【視点2 基盤となる技術の定着のために】

- 生徒の資格の取得やコンテストの参加などを奨励し、基礎的な知識・スキルを確実に習得させたり、国際標準規格を学ぶ機会を設け、製品の品質や環境への意識を高めさせたりする。

基礎的IT・データスキル

【視点3 IT・データスキルを身に付けてものづくりに活用】

- Society5.0では、全てのものづくりにITを活用できる力が必要であり、全校で《ものづくり×IT》に取り組むとともに、専門性を高めたいと希望する生徒にはより充実した教育環境等を提供する。

工業高校の魅力強化・発信

- 地域に親しまれ、“遊びに行ける工業高校”になるよう、地域の人々が気軽にものづくりや学校等の相談ができるよう、「校門をくぐりにくい雰囲気」を払拭する。
- 教育内容の刷新など実態を伴う前提での校名変更は、イメージ改善の選択肢の一つになり得る。
- 時代に即した技術の情報を教員が収集する。

3. 戦略プロジェクトの構成

○ 工業高校の将来像の実現に向けて、学科の改編等も含めて、教育内容、生徒の活動、教員の知識・技術の向上、魅力向上などの視点から施策を体系化し、推進します。

【目指す工業高校の姿】

工業高校の将来像

“技術の力で新たな価値の創出や課題解決を目指す力を育む学校”

企業連携等も一層推進し、生徒の学び続ける力や協働していく力、基盤となる技術などを育成し、将来、創造的な活動により、新しい価値の創出や都市課題の解決に貢献できる技術人材を輩出

【将来像実現に向けた施策】

1. DX人材育成等に向けた先進的な工業高校の実現

- 施策1 工業系学科等のアップデート
- 施策2 企業等との連携推進や交流機会の創出

2. 未来を切り拓く教育内容・指導法の展開

- 施策3 プロジェクト・ベースド・ラーニングの推進
- 施策4 工業IT科目の導入
- 施策5 先端技術の活用

3. 生徒が躍動する研究機会の創出

- 施策6 東京未来ファクトリーの実施等

4. 魅力の向上・発信

- 施策7 工業高校の名称の発展的な変更
- 施策8 工業科教員による知識・技術のアップデート
- 施策9 DX実習設備の導入等
- 施策10 PRワークショップの開催、動画等の発信

第7回 工大サミット



II 工業高校の将来像

“技術の力で新たな価値の創出や課題解決を目指す力を育む学校”の実現に向けて

社会の価値観や在り方が大きな変革期を迎え、技術革新が急激に進む局面において、工業高校は、生徒が将来、技術の力を最大限発揮できるよう、技術の習得にとどまらず、様々な問題や課題に向き合っていく力の育成に取り組んでいきます。

今後の工業高校

- 企業、高等教育機関、研究機関等との連携を一層推進し、将来にわたって新しい知識や技術を常にキャッチアップします。
 - ユーザー視点による創意工夫やトライ＆エラーにより、“創造的な活動の楽しさ”を実感できる教育を実践していきます。
 - 創造的活動を支えるための基盤となる基礎・基本の技術やIT等の学習を充実していきます。
- 創造的な活動により、新しい価値の創出や都市課題の解決に貢献できる技術人材を輩出していきます。

今後の展開の基本的な考え方

工業高校において育成する素養等

学び続ける力 協働する力
考える力 基盤となる技術
ITデータスキル 基礎学力の育成など

指導法・教育環境等

課題解決型の学習
先端技術の活用
企業連携等の実践

育成する人材像

Society 5.0時代に、創造的活動により新しい価値の創出や都市課題の解決に貢献し、東京の成長を支える技術人材を輩出

(教育内容・環境におけるデジタル・トランスフォーメーションの推進)

※ 工業教育の変革に向けた視点

- ① 技術の習得にとどまらず、目的設定や課題解決までを視野に入れて学習
- ② IT等の学びを必修にしたものづくり教育
- ③ これまでの工業教育の学びも大切にしながら、学校の特色や培ってきた実践等を更に進化

各学校の工業科の各分野の教員、国語・数学等の普通科等の教員が一体となり、相互の専門性を生かし、教育の充実・改善を推進

第7回 工大サミット

III 戦略プロジェクトの各施策

工業高校の将来像の実現に向けた施策の推進

“ものづくり”が迎える新たな局面などから明確化した工業高校の将来像の実現に向けて、学科の改編等も含めて、教育内容、生徒の活動、教員の知識・技術の向上、魅力向上など、総合的に施策を推進します。

1. DX人材育成等に向けた先進的な工業高校の実現 ～学科の発展と企業連携等～

施策1 工業系学科等のアップデート

産業界における技術革新やDXの推進などに向けて、既存の工業系学科を先進的な学科へと発展的にリニューアル(改編等)を行います。
都市課題の解決に向けた学習や、先端技術分野の学習、ITとものづくりを組み合わせた学習の強化、これまで学校が取り組んできた特色の強化などの視点から改編等を推進します。(参照:23～25ページ)

令和5年度～順次、実施



第7回 工大サミット

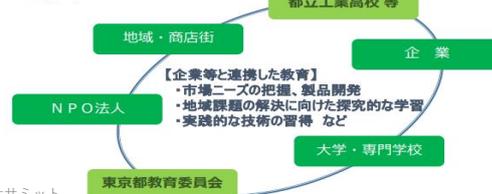
施策2 企業等との連携推進や交流機会の創出

新しい知識や技術、社会ニーズをキャッチアップする工業高校の実現に向けて、外部機関等との連携・交流を推進します。

- パートナー企業、アドバイザー企業、協賛企業などを募集
- 商業教育を支援する既存の企業等のコンソーシアムを拡大展開し、工業高校への支援を含む教育支援コンソーシアム(仮称)を実現
- 企業団体と学校とによる意見交換等を実施

順次、実施

○ 教育支援コンソーシアム(仮称)のイメージ



2. 未来を切り拓く教育内容・指導法の展開

施策3 プロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)の推進

生徒自らが問題点や課題を発見し、解決方法を模索することなどにより、ものづくりのプロセスを学ぶプロジェクト・ベースド・ラーニング(課題解決型の学習)を推進します。

令和4年度～全校推進

施策4 工業IT科目の導入

日常の製品・サービスに浸透するIoTやAIなどの先端技術との関わり方やプログラミング等、今後の工業分野で必須となるITについて、実践的・体験的な学習活動などを通して学ぶ科目を全ての工業高校に導入します。

令和4年度～全校導入

○ PBLによる効果や得られる経験

PBLにより、学び続ける力の育成、技術の定着なども図り、試行錯誤の経験を通して、ものづくりの魅力の実感、更なる学習意欲の向上につなげていきます。



第7回 工大サミット

施策5 先端技術の活用

Society5.0時代に求められる「価値創造・課題解決型」の学びのスタイルへ転換させ、子供たちの学ぶ意欲を高め、力を最大限に伸ばす教育の実現を目指し、VR等の先端技術の活用方法等について研究を推進します。

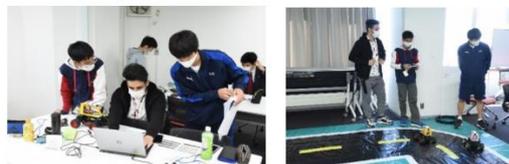
3. 生徒が躍動する研究機会の創出

施策6 東京未来ファクトリーの実施等

“ものづくり”などへの高い意欲や志のある生徒を募り、企業や大学の施設等を活用した先端的学習を行う「東京未来ファクトリー事業」の実施により、生徒の好奇心や意欲を更に向上させる研究活動や学校間交流活動などを推進します。

また、生徒の学びをより良い社会づくりと結び付ける機会とするため、生徒が学校の学びと関連する海外の取組や技術を見聞する活動として、海外への派遣も含めて、生徒の国際交流等を実施します。

令和4年度～拡充



第7回 工大サミット

IV 「施策1 工業系学科等のアップデート」(参照:19ページ)の概要

産業界における技術革新やDXの推進などに向け、先進的な学科へと発展的にリニューアル

都市課題の解決に向けた学習や、先端技術分野の学習、ITと“ものづくり”を組み合わせた学習の強化、これまで学校が取り組んできた特色の強化などの視点から改編等を推進します。

都市課題の解決 Solution

「防災」等の都市課題の解決を通じ、産業界が必要とする課題解決能力を育み、社会で活躍できる人材の素地を育成します。

北豊島工業高校(板橋区) 令和6年度
総合技術科 → **都市防災技術科(仮称)**へ改編
※首都東京の「防災」という観点から、学校の教育内容を総合的に充実

ドローン操縦
サーパ駆動
小型特殊車両



先端技術の学習(産業DXへ対応) DX

産業界のDXやイノベーションなど、これからのものづくり企業で求められる技術革新に対応できる人材の素地を育成します。

総合工科高校(世田谷区) 令和5年度
機械・自動車科、電気・情報デザイン科、建築・都市工学科
→ **各学科において学ぶ技術のDXを推進**
※企業連携を推進し、常に新しい技術の学習を展開

電動自動車
高電技術
コンピュータ
機械技術

蔵前工業高校(台東区) 令和5年度
機械科でロボティクスコースを展開
各学科において学ぶ技術のDXを推進
※産業ロボットの学習を深め、製造業でニーズが高まるROBOTISerを育成

産業用ロボット
ロボティクス
(数値制御/デジタル技術)




地域連携の推進 Cooperation

地域社会や企業等との連携を推進し、地域の産業を支える人材の素地を育成します。

豊田工業高校、六郷工科高校、鎌倉工業高校、足立工業高校、葛西工業高校、多摩工業高校、田無工業高校など
※地域企業等との連携について、全校で推進・充実



六郷工科高校(大田区) 令和7年度
プロダクト工学科、オートモビル工学科、システム工学科、デザイン工学科、デュアルシステム科
→ 単位制の特色等を生かし、**先端技術を学習する学科への改編**を検討




第7回 工大サミット

発展的なIT学習 IT

IT企業等との連携などにより、IT企業や産業界各分野でDXを担うことができるIT人材の素地を育成します。

特色の強化 Upgrade

「食品」「環境」など、これまで学校が培った特色を一層強化し、産業分野における技術の進化等に対応できる人材の素地を育成します。

町田工業高校(町田市)
情報テクノロジー系列においてTokyo P-TECH開始(令和3年度)

荒川工業高校(荒川区)
情報技術科においてTokyo P-TECHの導入を検討

府中工業高校(府中市)
情報技術科においてTokyo P-TECHの導入を検討



IT×SDGsのIT環境科(仮称)へ

杉並工業高校(杉並区) 令和6年度
電子科、理工環境科、機械科をIT環境科(仮称)へ改編
※IT教育等を実践し、進学も見据えて環境に関わる素養をもったIT人材を育成




中野工業高校(中野区) 令和6年度
キャリア技術科(機械、食品、工業化学)
→ **食品サイエンス科(仮称)**へ改編
※食品加工と工業化学を連携させ、食を考える学習を強化



Tokyo P-TECH

工業高校3年間と専門学校2年間の接続を図り、IT企業の実務家等からの支援により、IT人材の育成を目指す教育プログラム



イノベーション人材の育成 Innovation

理数分野の資質・能力と、技術・工学分野の資質・能力を融合し、自らの得意分野を生かしながら協働してイノベーションを生み出す人材の素地を育成します。

科学技術高校(江東区) 令和6年度
科学技術科の一部を理数に関する学科に改編

科学技術高校では、令和3年から文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、先進的な理数教育のカリキュラム開発にも取り組んでいます。



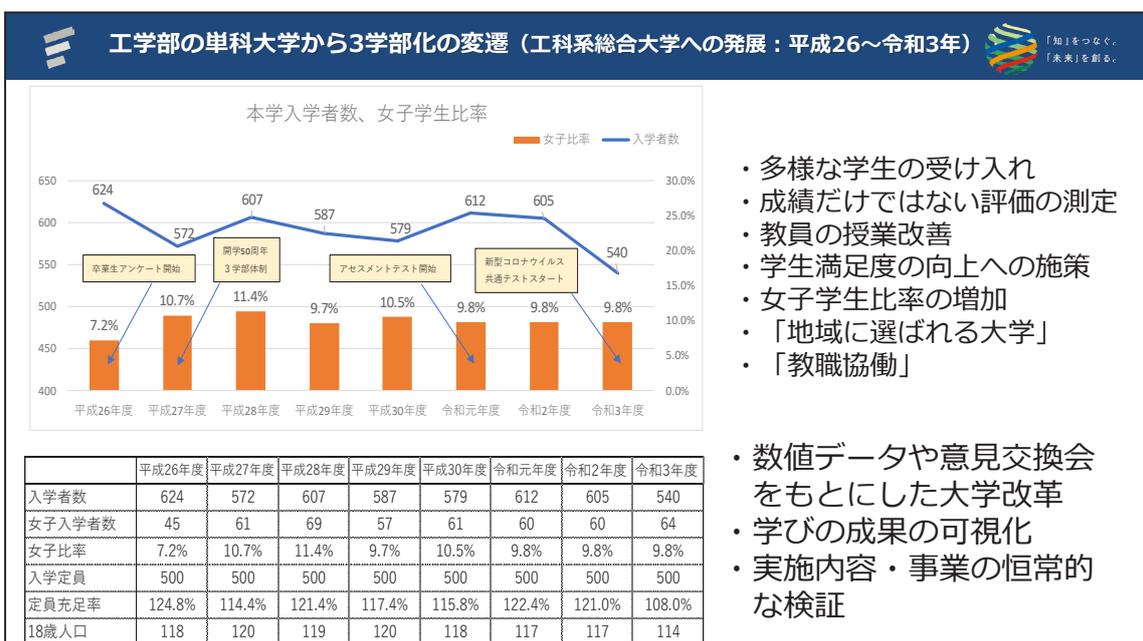
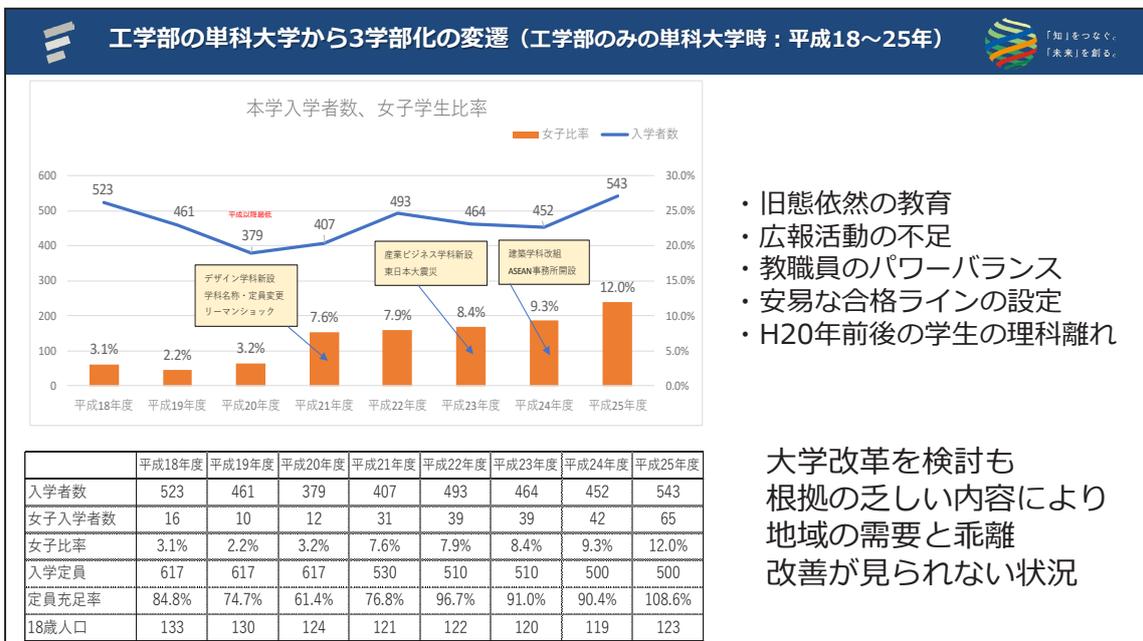
第7回 工大サミット

※画像は、イメージです。

改編等の内容・スケジュール等

	学校	現在の学科	改編等の内容	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
都市課題	北豊島工業高校	総合技術科(P30参照)	都市防災技術科(仮称)に改編		教育課程の編成		学科改編	
	総合工科高校	機械・自動車科 電気・情報デザイン科 建築・都市工学科	現在の学科に先端技術分野学習の導入			導入		
先端技術の学習	蔵前工業高校	機械科 電気科 建築科 設備工業科	機械科にロボティクスコースを開設				ロボティクスコースの開設等	ロボティクスコースの本格実施
	六郷工科高校	プロダクト工学科 オートモビル工学科 システム工学科 デザイン工学科 デュアルシステム科	※先端技術分野の学習を行う学科への改編を検討	改編内容の検討	改編内容の検討			学科改編
発展的なIT	荒川工業高校	電気科 電子科 情報技術科	情報技術科においてTokyo P-TECHを導入	連携企業等の開拓		令和4年度以降、順次、調整・実施		
	府中工業高校	機械科 電気科 情報技術科 工業技術科	情報技術科においてTokyo P-TECHを導入	連携企業等の開拓				
	町田工業高校	総合情報科(P30参照)	情報テクノロジー系列においてTokyo P-TECHを導入	本格実施 ※令和2年度まで試行				
特色の強化	杉並工業高校	機械科 電子科 理工環境科	IT環境科(仮称)に改編		教育課程の編成		学科改編	
	中野工業高校	キャリア技術科(P30参照)	食品サイエンス科(仮称)に改編		教育課程の編成		学科改編	
革新	科学技術高校	科学技術科(P30参照)	一部を理数に関する学科に改編		教育課程の編成		学科改編	

第7回 工大サミット



≡ 本学の質保証の取り組み (大学「3つのポリシー」の策定)

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

ディプロマ・ポリシー

- **基本的な知識**
- **専門的な知識・技術**
- **コミュニケーション、プレゼンテーション、チームワーク力**
- **社会人に対する心構え、意欲**
- **課題解決に取り組むことのできる力**

≡ 本学の質保証の取り組み (教養分野)

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

習熟度に応じた教育・支援

【2024年度入学者の受験区分および高校在籍科】

入試区分	人数
附属校	78
指定校	92
スポーツ推薦	135
目的意識	24
一般推薦	39
専門・総合学科推薦	5
一般選抜	67
留学生	24
他	3

高校時在籍	人数
普通科	332
工業科	62
商業科	22
農業科	5
総合学科	12
他	34

- 入学後に数学・英語のテスト（プレースメントテスト）を実施
- 学びの到達ごとにクラス分けを行い、相応の教育を実施

数学3クラス、英語3クラス用意
(2024年度前期、工学部1年生の場合)

+
学習支援室

福井工業大学
Fukui University of Technology

≡ 本学の質保証の取り組み (教養・専門分野)

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

教育支援ツール manabaの導入

The screenshot displays the manaba LMS interface for Fukui University of Technology. It shows a course page with a navigation menu (マイページ, コース), course information (Fukui University of Technology, 2024-10-28), and a list of course news and content. The course news section includes items like '7/19の授業の持ち物' and '今後の予定'. The content section shows a list of lessons (e.g., 第14回, 第13回, 第12回) with their respective dates and times.

≡ 本学の質保証の取り組み (教養・専門分野) 「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

授業評価アンケート

設問 1 : 講義コード (半角英数字) を記入してください。

設問 2 : 設問シラバス (授業目標・スケジュール・成績評価等) に関する説明が理解できたと思いますか。

設問 3 : 授業内容を理解できたと思いますか。

設問 4 : 授業内容は興味を持てるものだと思いますか。

設問 5 : 授業はシラバスに沿って適切に進められていると思いますか。

設問 6 : (授業や動画における) 教員の声やことばは明確で聞き取りやすいと思いますか。

設問 7 : 教員は教科書・板書・プリント・情報機器などを使って、分かり易い授業を行っていますと思いますか。

設問 8 : 教員は熱意を持って授業に取り組んでいると思いますか。

設問 9 : 教員は学生の理解に合わせて授業を進めていると思いますか。

設問 10 : 総合的に判断して、この授業は良い授業だったと思いますか。

設問 11 : この授業について、あなたの自由な意見や要望を記入してください (オンライン授業の環境も含みます)。

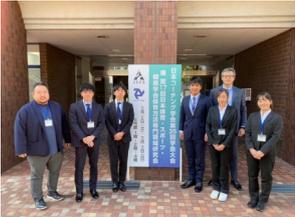
4段階評価

→ 自由記述

受講者全員に実施

≡ 本学の質保証の取り組み (専門分野) 「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

学術活動への参加で専門性を高める



日本コーチング学会



日本陸上競技学会



日本トレーニング科学会



口頭発表の様子



ポスター発表の様子

**学部生が多く参加
1年生での発表者も**

≡ 本学の質保証の取り組み (専門分野) 「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

専門性を活かした地域、社会への還元 ⇄ 専門性を高める



AIチャットボット実証実験



雨水活性化プロジェクト



(福井県勝山市との連携)
古民家再生 小原ECOプロジェクト



(福井県坂井市との連携)
デザインの観点から「まちめぐり」を促進



本学の質保証の取り組み（工科系総合大学だからこそできること）

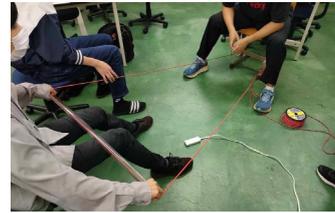


学科連携のプロジェクト（工学×スポーツ）

スポーツ健康科学科（地域活性演習）



機械工学科（FUT実践学演習）



本学の質保証の取り組み（工科系総合大学だからこそできること）



クラブ活動による公欠制度

- 強化指定クラブの公式試合での欠席
- 各クラブからの申請を元にクラブ活動支援センターが取りまとめ
- 公欠対象者を教員へ通知
- 各教員が公欠対応
- 公欠課題（授業コンテンツの閲覧、レポートなど）を実施すれば出席扱い

2015年度からの3学部体制を見据え2014年度より**制度化**
（2014年度にクラブ活動支援センターを開設）

教育を受ける機会の担保



本学の質保証の取り組み（学生の成長を検証）



「GPS-Academic」の実施（2019年度～）

大項目	中項目	小項目
思考力	批判的思考力	・情報を抽出し吟味する
	協働的思考力	・他者との共通点・違いを理解する
	創造的思考力	・情報を関連づける
問題解決に向かう 姿勢・態度	レジリエンス	・感情の制御 ・立ち直りの速さ ・状況に応じ冷静に対応する力
	リーダーシップ	・自ら先頭に立って進める力 ・未知の物に挑戦する力 ・粘り強くやり抜く力
	コラボレーション	・相手の立場に立とうとする姿勢 ・他者と関わろうとする積極性
問題解決に向かう 経験	自己管理	・挑戦する経験 ・続ける経験 ・ストレスに対処する経験
	対人関係	・多様性を受容する経験 ・関係性を築く経験 ・議論する経験
	計画・実行	・課題を設定する経験 ・解決策を立案する経験 ・実行・検証する経験

課題解決のために必要な
「思考力」「姿勢・態度」「経験」を
可視化するアセスメント

1年次と3年時に全員が受検

ベネッセキャリア社



≡ 本学の質保証の取り組み（学生の満足度を検証）

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

卒業生満足度アンケートの実施（回収率：約95%）

○調査項目

- ・「学び」の満足度
（教養科目・専門科目・卒業研究）
- ・大学生活における取組
- ・英語教育プログラム満足度
- ・進路に対する満足度
- ・各種支援体制に対する満足度
- ・教育・施設等に対する意見

**結果は学長や主要教員へ共有
法人本部に意見・要望を提示**

○調査結果公表ページ → 

(直近)

 福井工業大学
Fukui University of Technology

≡ 本学の質保証の取り組み（学生の満足度を検証）

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

アンケート結果から改善が行われた事例

○ **大学1号館トイレリニューアル**

内装をリニューアル
女性用トイレにはサブミラーの
ついたパウダースペースと
姿見を設置。



○ **Wi-Fi利用個所の拡充**

福井Cに70箇所、あわらCに35箇所増設

全学生のノートPCによるLMS、Teams、VR、
eポートフォリオの利用環境拡充の基盤を整備

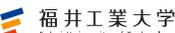
○ **女子学生ラウンジの整備**

学園レストランの一部を改装
令和6年3月
「FEMALE LOUNGE」を設置。



○ **カリキュラムの変更**

より高いレベルの授業を受けたいとの意見から
専門性の高い科目を設置

 福井工業大学
Fukui University of Technology

≡ 女子学生満足度向上、女子学生増加にむけた施策

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

女子学生（2010）96名 → （2024）254名 全学生の13%に上昇してきているが

福井工業大学では
2030年度までに **30%** に増加させることを目標

▶ より多くの女子入学者を確保するための
女子高校生に向けた広報が必要

女子高校生対象オープンキャンパス企画を 2022 年度に 1 回実施
(その内容について、計画、運営やイベントに参加した生徒や保護者、スタッフの意見を検証)

女子高校生対象オープンキャンパス企画を 2023 年度に 2 回実施
(1 回目イベントをブラッシュアップしたもの)

他大学調査
(女子学生の活動が活発な工業大学)

女子高校生進学意識アンケート




65